



地元高校生による足湯ボランティア
(東日本大震災)

防災教育と 災害ボランティア

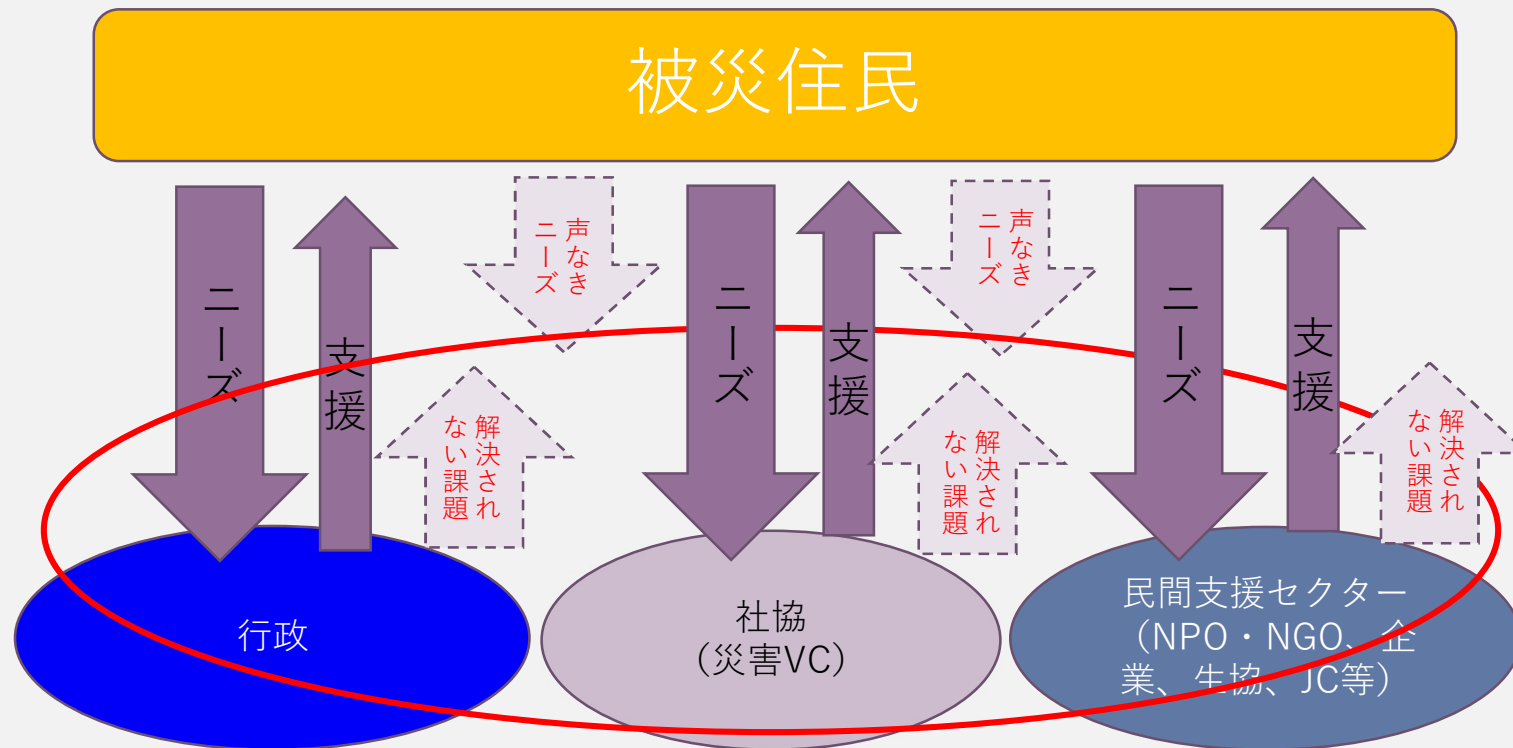
震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)代表
東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)代表世話人
災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)幹事
愛知県被災者支援センター長
東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや運営委員

認定NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)代表理事
認定NPO法人レスキューストックヤード(RSY)代表理事
栗田暢之

東日本大震災までの市民セクター (ボランティア・NPO/NGO)



多様な支援主体間の連携を推進し、 迅速かつ適切な対応を！



関係者間で情報共有し、単体では解決しない課題（の部分）を
調整することで解決につなげる

概要

- 設立 2016年10月NPO法人化認証(東京都)/11月1日設立 ※2019年12月「認定NPO法人」取得
- 代表理事 栗田暢之 事務局長 明城徹也
- 災害時のNPO・ボランティア等異なる組織の活動支援や「活動調整」を行う全国域の中間支援組織

活動調整を行った主な災害

- 2015年 関東・東北豪雨(茨城県) ※
- 2016年 熊本地震 ※
台風10号(北海道、岩手県)
- 2017年 九州北部豪雨(福岡県、大分県)
- 2018年 大阪北部地震
西日本豪雨(岡山県、広島県、愛媛県)
北海道胆振東部地震
- 2019年 8月豪雨(佐賀県、福岡県)
台風15号・19号(千葉県、長野県、宮城県など)
- 2020年 令和2年7月豪雨(熊本県、大分県など)
- 2021年 福島県沖地震(福島県、宮城県)

※JVOAD準備会

内閣府との連携

- ・行政・NPO・ボランティア等の三者連携・協働タイアップ宣言
- ・「防災ボランティア活動の連携・協働に関する検討会」副座長
- ・「防災教育・周知啓発(災害ボランティア)WG」座長
- ・「災害時の連携を考える全国フォーラム」共催など

その他機関との連携

- ・「防災推進協議会」会員
- ・「支援の質とアカウンタビリティ向上ネットワーク(JQAN)」会員

功績

- 「平成29年度防災功労者防災担当大臣表彰」
熊本地震での功績
- 「令和2年度防災功労賞内閣総理大臣表彰」
災害支援の分野で功績が顕著
- 天皇陛下御貸金授与(御即位に伴う下賜・全国2団体)



自治体とのつながり

- 17都道府県において、行政などからの要請により、行政・社協・NPO等のネットワーク構築に参画し、連携促進のための助言等を行っている。今後さらに拡大していく予定



山本防災担当大臣とのタイアップ宣言調印【2019年5月21日】



天皇陛下御下賜金授与を武田防災担当大臣に報告【2020年4月28日】

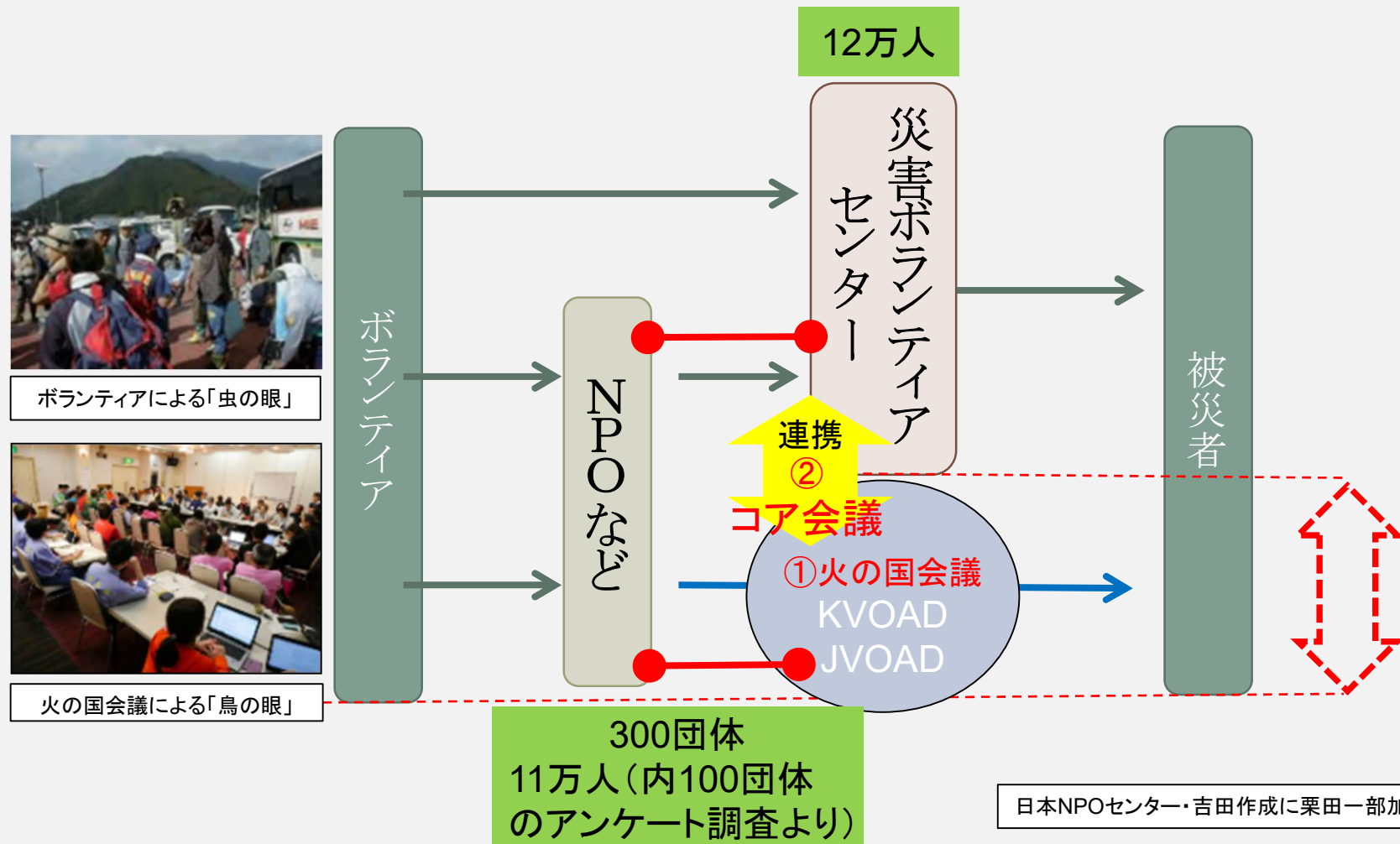
課題①

「災害後」の命をどう守るか

- ◆ 命を守るための「災害前」の防災教育は何より大切だ。
- ◆ 一方で、「災害後」に命を守るための防災教育も必要だと考える。
- ◆ 助かったと安堵するも束の間。あまりに過酷な避難生活や今後どこでどう暮らしていけばいいのかの現実問題がすぐに突きつけられる。「あの時一緒に流されればよかった」「生きるも地獄」などの声の何と多いことか。
- ◆ 最悪のケースである「災害関連死」をどう防ぐか。

熊本地震における情報共有会議

- ① 「火の国会議」： 約300のNPOなどによる情報交換・調整
- ② 「情報共有会議(+コア会議)」： 熊本県・市・県社協・市社協・NPOによる情報交換・調整



熊本地震における被災者ニーズの移り変わり

@熊本県作成(タイトルと左端は栗田加筆)

初動・水・食糧・物資

避難
避難所

仮設住宅等での
コミュニティ形成等

自宅等での避難者

地域
再構築

心身の健康

生活再建支援

学習支援

ブルーシート

必需品・思い出の品取出し

居宅等片付け

農業・集落維持

**観光はいつでも
大歓迎だモン！**

災害関連死(215人・直接死の4倍超)

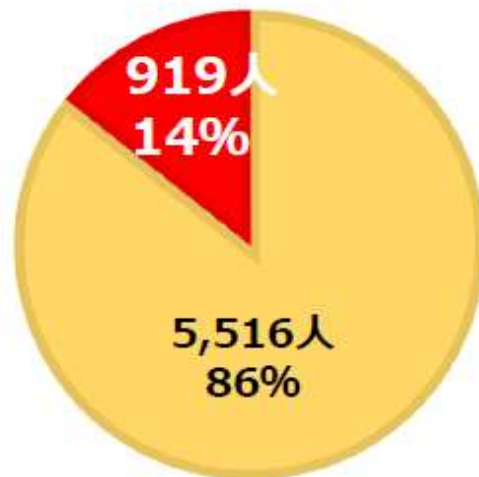
自治体からの「ヘルプ」→多様な避難形態への対応・避難所アセスメント・要援護者対応などNPOの役割大



災害関連死

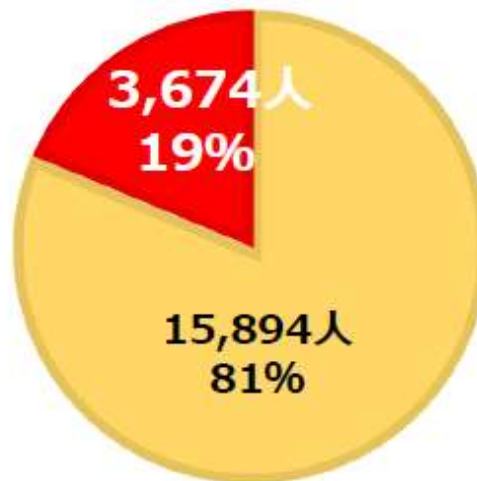
阪神・淡路大震災

死亡:6,435人



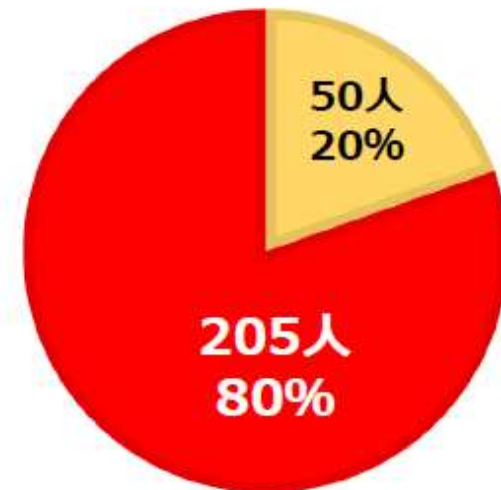
東日本大震災

死亡:19,541人



熊本地震

死亡:255人



■ 災害関連死 ■ 直接死

参考：復興庁HP（2018年1月15日）

課題②

災害ボランティアの「活用」と誘い

- ◆ 一災害に、全国から多数の個人ボランティアやボランティア団体・NPO等が被災地へ駆け付け、支援活動から様々な学びを得ている。
- ◆ しかし、その者らが、地元の防災・減災活動に参加しているかと言えば、限定的である。
- ◆ 各地で開催されている災害関連の講座や研修、訓練等への参加を促したい。
- ◆ 一方で、教える側の適正の課題(実際の避難所を見たこともない方がHUGの講師を務めているなど)、教材も乏しい。

子どもの頃からの災害ボランティア ～「教える」というより「教えられている」

(小中高で講演等の依頼のあった場合に災害ボランティアに触れる内容)

- ひざの悪いお年寄りのために、保管場所を知っている中学生がパイプ椅子を出してくれました。
- 避難所で大変な大人たちの様子を励まそうと、「災害に負けないで!」「一緒にがんばろう!」とポスターを作って励ましてくれました。
- 重たいポリタンクを、給水車から自宅まで運んでくれました。
- 何時間も一人で並ばなければならず、トイレにも行けず困っていたら、代わりに並んでくれました。
- 自らも避難所暮らしの中学生が、率先して炊き出しの手伝いをしてくれました。
- 若い子たちが足湯で一緒に泣いてくれました。



子どもの頃からの防災教育 ～「来ない」なら「出向く」

- ・ 子ども会や児童館で防災講演会などを企画しても集客できない。「子どもも忙しい」。
- ・ 大型ショッピングセンターは「地域に貢献したい」と考えている。
- ・ 集客しなくても、行列ができるほど人が集まる。(コロナ禍でもできる方法を考え中)
- ・ 特に親子連れが「楽しく、学べる」。
- ・ 地元行政・学校・災害ボランティア等の協力。



親子防災イベント

あそぼうさい・まなぼうさい

じしんに やくだつ『ワザ』

とき 2016年11月20日(日) 11時～16時

ばしょ リーフワーク稲沢

うけつけ 1F リーフコート(最終受付15:30)

たいしょう 中学生までのお子さんのいるご家族
※親子、高校生のご参加も大歓迎です

当日は、今日から
復立っ「ワザ」を
学べるステージも
あるよ!

遊んで学べる 体験フース!

じしんぞうじ!

地震のゆれを
体験してみよう!
ゆれた時に正しい
行動をとることが
できるかな?

避難するまでの道を
すすんでいくよ。
ゴールの
ひなん所までキミは
たどりつけるか!?

いっはいいだゾウ!

地震がおきた時、
危険な所はどこ?
安全な所は?
地図を見ながら
調べてみよう!

つてみたゾウ!

避難所で使う
非常持ち出し袋に
入れるものを
防災的りばりで
つてみよう!

つくってみたゾウ!
たべてみたゾウ!

身近なもので
食糧や美味しい
非常食を作って
みよう!

他にも、リーフワークの防災かま
どを使った「炊き出し」のトン
汁飯や、親子で作るベッ
トボトルランタンなど楽しく
体験できるフースがいっぱい!

このほかに、復立っ
「ワザ」がいっぱい!

体験フースに参加するとポイントがもらえるよ!
ポイントを集めてプレゼントをゲットしよう!

ご家族のみなさまへ

地震の瞬間に「いのち」を守るためには、
地震が起こる前にしておかなければならないことや、
心がけておいた方がいいことが、沢山あります。
もうすぐ起こると言われている大地震。
うちでの備えは万全ですか?

いざという時、お子さんが一人でも勇気をもって災害に
立ち向かえるような「ワザ」を選びながら楽しく学べるイ
ベントです。ぜひご家族でご参加ください。当日は、今年
度緑区内で行ってきた防災プログラムの報告会も開催い
たします。合わせてご参加ください。

■主催 ユニーク株式会社 LEAF WALK
■協力 高松市にまいる研究会・災害ボランティアネットワークちくさ・名古屋みずほ災害
ボランティアネットワーク・NPO法人コミュニティサポーほうぶ・おちい防災リー
ダー会(西尾地区)・12・稲沢市近隣のボランティア団体・稲沢市立直轄等
■後援 稲沢市

- ◆ まずは自分が災害で死なないこと
- ◆ ボランティアする・しないは各自の選択(したい人には肩を押したい)
- ◆ NPOはボランティアと同一ではない
- ◆ 同じなのは「他人の気持ちに思いを馳せる」「より困難な方に寄り添う」≠「私、頑張ってます」「何でもしてあげる」
- ◆ 人材の確保や啓発の在り方は課題山積。